

## HIAT2015 国際会議報告

### タイトル

第13回重イオン加速器技術に関する国際会議  
13th International Conference on Heavy Ion Accelerator Technology

### 開催日

平成27年9月7日より9月11までの5日間

### 開催場所

わーくぴあ横浜(神奈川県横浜市)

### 共済機関

理化学研究所仁科加速器センター  
大阪大学核物理研究センター  
放射線医学総合研究所  
筑波大学  
日本原子力研究開発機構-高崎

### 参加者

120名(海外より58名)

### 国際諮問委員会

Ludwig Beck	LMU Munich	Germany
Giovanni Bisoffi	INFN-LNL, Legnaro	Italy
Yuan He	IMP	China
Osamu Kamigaito	RIKEN	Japan
Dinakar Karjilal	IUAC	India
Oliver Kester	GSI	Germany
Bernard Laune	Orsay	France
Robert Laxdal	TRIUMF	Canada
Daniela Leitner	MSU	USA
Nikolai Lobanov	Australian National Univ.	Australia
Francis Osswald	IPHC and SPIRAL2	France
Richard Pardo	ANL	USA
Zhaohua Peng	CIAE	China
Danilo Rifuggiato	INFN-LNS, Catania	Italy
Kimikazu Sasa	University of Tsukuba	Japan

### 組織委員会

Osamu Kamigaito RIKEN (Conference Chair)  
Advisory Board  
Masayuki Kase RIKEN (Board Chair)  
Kichiji Hatanaka RCNP, Osaka Univ.  
Koji Noda NIRS  
Kimikazu Sasa University of Tsukuba  
Wataru Yokota JAEA-Takasaki

### 実行委員会

Naruhiko Sakamoto RIKEN (Board Chair)  
Nobuhisa Fukinishi RIKEN  
Eiji Ikezawa RIKEN  
Misaki Komiyama RIKEN  
Narumasa Miyauchi RIKEN  
Hiroki Okuno RIKEN  
Karen Sakuma RIKEN (Conference Secretary)  
Tamaki Watanabe RIKEN  
Kazunari Yamada RIKEN (Proceedings Editor)

## ウェブ

<http://www.nishina.riken.jp/hiat2015/>

## 概要

この会議は、1973年に英ダレスブリで開催された「静電加速器器技術に関する国際会議」に端を発し、1995年の第7回(豪 Canberra)から重イオン加速器技術に関する国際会議として開催されるようになり、その後、重イオン加速器の幅広い分野において、先端技術開発・応用研究・施設現状報告・将来計画などの議論を活発に行ってきた。

ほぼ3年おきに開催され、2009年に第11回を伊 Veneziaにて開催(このとき参加者129名を記録)、2012年には、第12回アルゴンヌ国立研究所の主催で米 Chicagoにて開催された(参加者約80名)。今回、相当数の参加者を確保すべく、理研仁科センターの加速器部門がホストとなり会場を横浜に移して第13回(HIAT2015)を開催する運びとなった。

規模はそれほど大きくないが、重イオン加速器に焦点を絞った国際的な研究会が他に無い所為もあって、世界の主要なRIビーム施設から活発な発表が行われている。この会議が日本で開催されるのは初めてで、この機会に、基礎科学から応用研究までをカバーする他の日本の重イオン加速器施設と協力して、多くの参加者により重イオン加速器技術とRIビーム加速器施設の交流と発展を図るものである。

本会議の国際諮問委員会では、重イオン加速器の将来を担う若手の参加者を増やす方策がないかどうか、かねてより議論されてきた。今回の援助を学生の参加補助に充て、学生の参加を促すこととした。補助の可否は、指導教官の推薦状をもとに組織委員で決定した。

## 予算執行状況

お認めいただいた助成金30万円の執行状況は以下の通りである。

学生登録費補助(6名)	270,000円
予稿集印刷(20冊)	22,318円
余剰金	7,682円

なお、余剰金7682円は返還した。

新しい試みであったが、学生の参加者は17名を数え、国際諮問委員会でも高い評価を得た。今後の会議でも同様の試みが継続される見込みである。また、会議自体の参加者も目標数を達成し成功を収めた。組織委員会を代表して感謝申し上げる。



写真: クロージングセッションでの学生スタッフの紹介の様子